

札幌市議団ニュース

2012年10月30日 No.67

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

第3回定例議会 決算特別委員会・論戦特集 (8)

=井上ひさ子議員

スリッパ履きは時代遅れ、

区民センター大ホールに土足で入れるように改善を！

全市の区民センター大ホールのうち、まだスリッパ履きのところが4カ所残っています（中央区、南区、豊平区、手稲区）。

井上議員はこの問題で「高齢者がスリッパにつまずいたり踏んだりして危ない。いつもパタパタと音がしている。土足でそのまま入ると、入り口での靴のトラブルや混雑もなくなる。“そのままスムーズに土足で入れるように改善してほしい”という声が出ているが、いかがか」と質問しました。

野崎担当部長は「土足の取扱の変更については、利用実態を踏まえて施設管理者が判断するもの」と答弁しました。

井上議員はさらに「本市直営の時も、指定管理者に変わっても相変わらずスリッパ履きだ。利用者サービスにもなり利用増にもつながる。本市の施設なのだから、利用者の立場にたって検討をすべき」と迫りました。

=宮川 潤議員

農業の担い手確保と農地の維持のためにいま必要なこと

～私は札幌の農業を応援します

札幌市の農政問題の基本は農地の減少と農業の担い手不足です。65歳以上の農業就業者はこの5年間で48.5%から57.3%に増加し、「後継者がいる」とした農家は27.8%しかありません。

宮川議員は、この問題で「農業の高齢化、後継者問題」の基本認識を尋ねたあと、「新たな担い手確保には、農業経営が成り立つように数年の間、生活費の一部を援助するとか、機械の購入農業技術の研修支援も必要と思うが、どうか」と質しました。

三部農政部長は「深刻な状況だと認識している」「新規就農には多額の費用と時間がかかる。支援策として国が今年度から創設した『青年就農給付金』が有効で積極的に活用していきたい。また、何より技術をしっかりと身につけることは大事。そのため本市としても、今年から『夢農業人育成支援事業』を始めたところ」と答弁しました。

⇒ 裏面につづく

宮川議員は次に「都市近郊農家の特徴を生かすことが肝要。札幌にも特産の美味しい野菜が栽培されている。札幌の農産物を愛する市民、消費者の動きに協力することがあればすべきと思うが、どうか」と求めました。

三部農政部長は「市民主体の活動に対して農協など関係機関と協力しアピールしていきたい」と答弁しました。(2012. 10. 25)

＝坂本恭子議員

避難場所としての小中学校の耐震強化と機能強化・整備を！

坂本議員は「避難場所となる小中学校の耐震強化を急ぐと同時に、学校の改築・改修時に、避難場所としての機能強化・整備をはかっていくべきと思うが、どうか」。また「動線を確保することが大事」として、「体育館側に備蓄物資を配置し、トイレ、シャワー、個室などを計画的に整備すること。暖房、電源、電話回線などの確保も、改築時に充分考慮し、設計に反映させるべき」と求めました。

渡邊担当部長は「避難場所としての機能を確保し、バリアフリー法にそって、障がいのある方、高齢の方にも対応している」「動線については設計のプロに委せているし、地域の意見を聞く機会があるので反映させていきたい。何れにしても、避難所基本計画検討委員会で計画が策定され次第、これを踏まえて教育委員会として取り組んでいきたい」との答弁にとどまりました。

坂本議員は最後に、「基本計画が出来ないと何も出来ないというのでなく、他部局と相互連携・協力しつつ、教育委員会として独自に出来ることをドンドンやってほしい」と強く求めました。(2012. 10. 19)